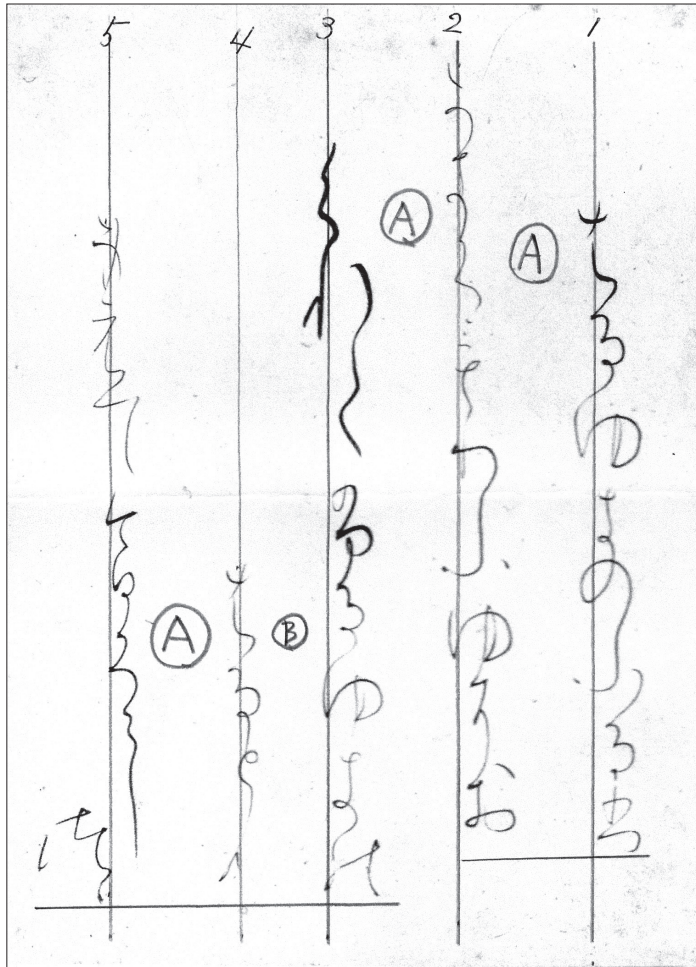


半紙臨書課題 宮 絢子先生担当 (1月22日締切) 出品料440円



- 2、形式 〓 半紙をたてに使用し、小筆で臨書する。落款は、左の余白に全体のバランスを考え「〇〇臨」と入る。
- 3、概観 〓 升色紙の臨書課題に取り組んで9回目です。6回目までは、大筆を使い筆遣いや連綿、筆圧のかけ方や墨量の変化等を部分的に臨書し、その特徴を学んできました。そして、7・8回目は小筆を使用して「散らし書き」を学んでいます。
- 4、今回の「散らし書き」のポイント
 〈注・行の上部に1、5をふっている〉
 その① 1に題が書かれているが、2から始まる歌とけ合っていることに注意。それは墨つきと関係している。
 その② 墨つきは、書き出し1の「者」、3の「久」、5の「今」
 その③ 行の傾きは補助線から分かるようにどの行も一樣に「左から右へ」流れている。
 その④ 行間は1と2、2と3、4と5がほぼ同じ(A)。3と4のあいだは少し狭い(B)。最後のことは「徒々」は5に含めた。
 その⑤ 行頭の高さは2が最も高く、次に高いのは3。1と5はほぼ同じ高さで、全体的に「山型」になっている。
 その⑥ 行脚は1と2がほぼそろっている。また、3・4・5もそろっている。

一字書課題 (1月22日締切)

燕

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付

太枠内の臨書の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

条幅随意参考

「者るゆ支のふる悲」

可支久毛利 ふゆ耳おくれ天布るゆ支能

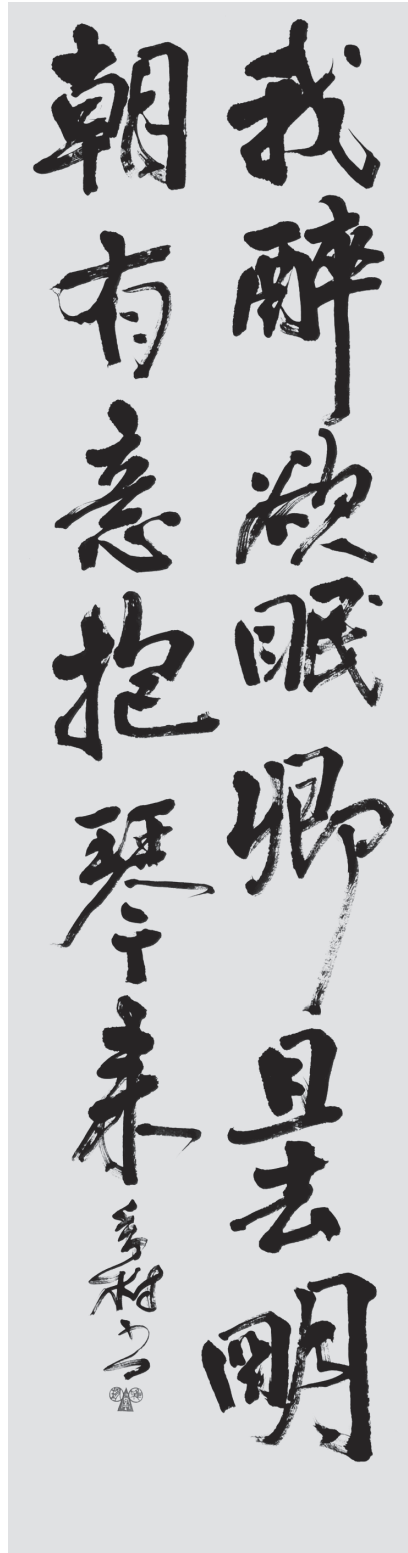
者と无身えて 今日久らし徒々

半切に題の部分も含めて収まりよく臨書する。文字数が多くなるが、工夫して「〇〇臨」と落款を入れる。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

A
高橋香樹会長書

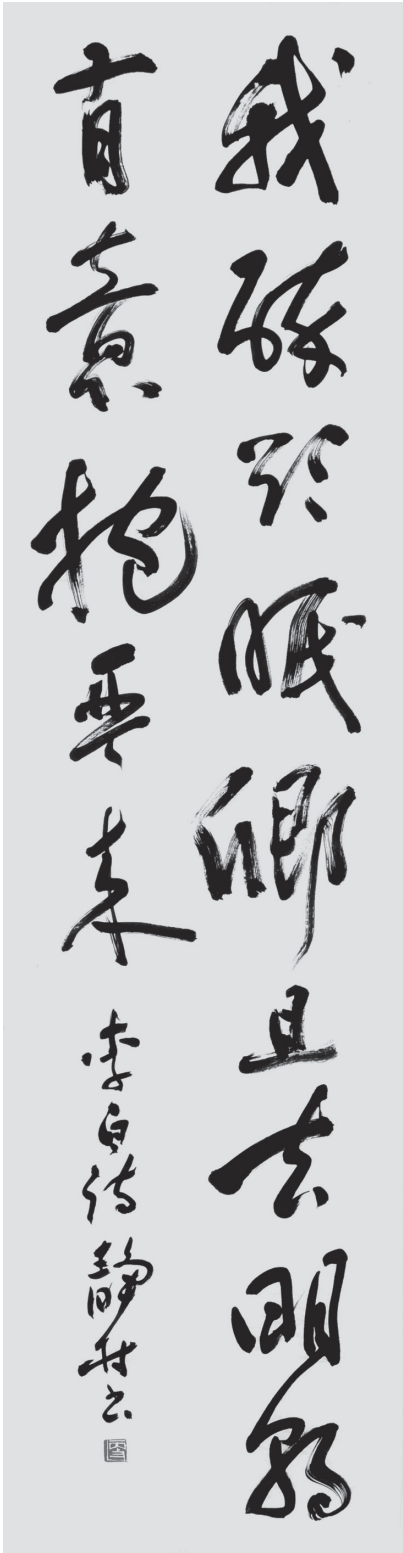
我醉欲眠卿且去 明朝有意抱琴來 (李白)
我酔うて眠らんと欲す卿且く去れ、明朝意有らば琴を抱いて来れ。



B

鈴木静村先生書

最初は草書単体を試みましたが、納得いくものができず、行書単体としました。単体での流れの表出は、困難がともないますが、正方形・長方形の字形をできるだけ排除することにより不定形での作とし、少しでも流れが表出できたらと考えました。「月」を含む字が三字出てきますが(明・朝・有)、少しずつ変化させました。墨継ぎは、「且」と「意」。



我 一画目、突いて弾き返す。醉 旁の「返し」で空間欲しい。欲 旁の三点は、どちらか切る。眠 点はなくても可。卿 「月」に間違いやすい。
「月」に。明朝 連綿し朝は草体。抱 偏が大事。琴 草体。末画点は軽く。来 右払いは真横に暢びやか。
訳：私はもう眠りたい。あなたはしばらくお帰りになって下さい。明朝、お気持ちに向いたならば、琴をたずさえてお訪ね下さい。

予告 (二月二十二日締切)

長風如刀剪枯葉

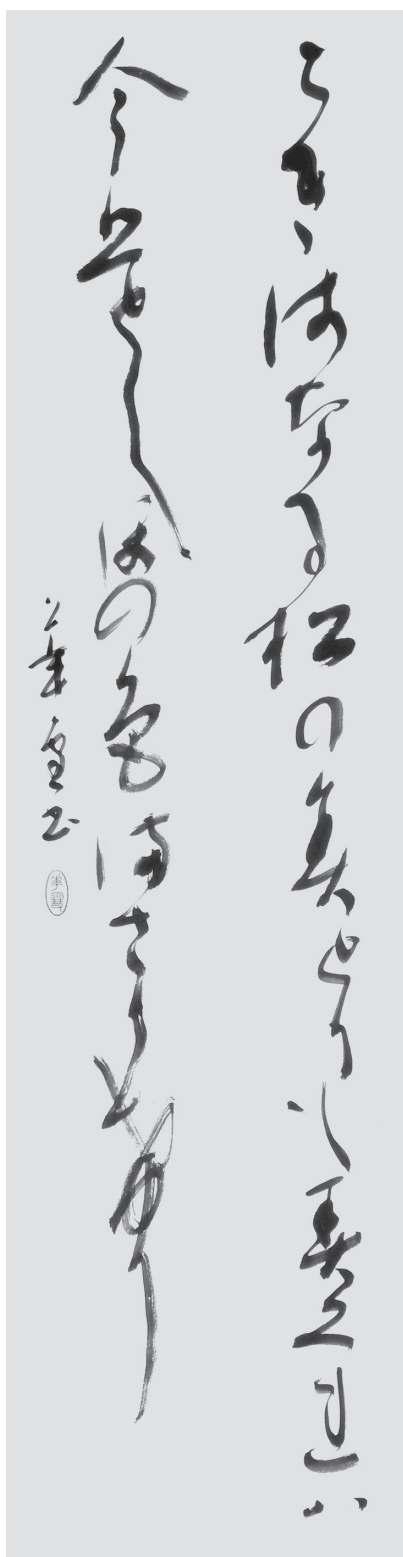
大河似箭浮輕舟 (韋応物)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

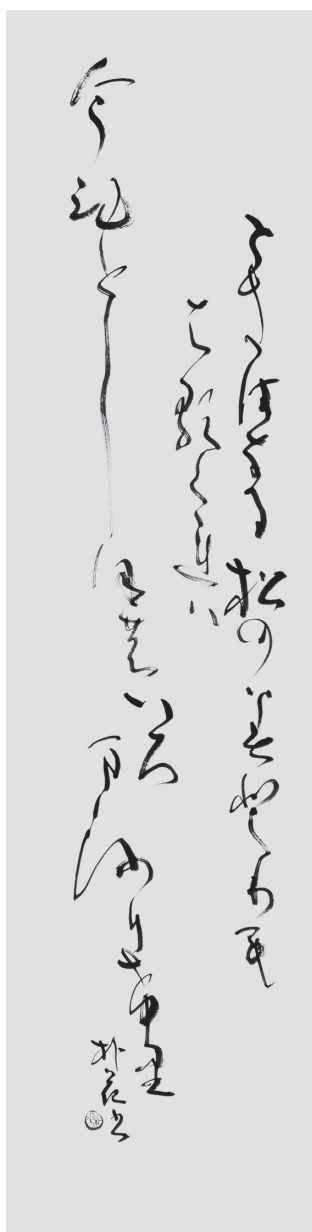
ときはなる松のみどりも春くれば今ひとしほの色まさりけり (源 宗子)
ときはなる松の美とりも春久連八今悲としほの色満さり希り



B

向山朴花先生書

と支は奈る松の美登利毛者類久連八今飛とし保農いろ万沙り希里



源宗子について

平安時代前期から中期にかけての貴族、歌人。光孝天皇の孫。三十六歌仙の一人。

寛平后宮歌合や貞親王家歌合に参加。紀貫之との贈答歌や、伊勢に贈った歌などが伝わり、交流がうかがわれる。

小倉百人一首には「山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草も枯れぬと思へば」がある。

学び方

歌意：常に変わらない松のみどりも春がくると一段と色が鮮やかになります。今回、右の平岡華雪先生の御作品に着目してみました。基本的な二行書きですが、各行に見られる文字の、左右への振幅、大小、字間の伸縮が調和して、大らかで躍動感に溢れています。日頃、文字形、構成の試行について走りがちですが、基本となる筆の動きを確かめてみることは大事だと感じます。平岡先生の書から多くを学びながら、私なりの構成にして書いてみました。この歌の「春くれば」は、大事な言葉とみて、五文字の位置についてさまざま試行をくり返しましたが、結果、左行「今ひとしほの」の渴筆となる広い余白の位置におさめてみました。

予告 (二月二十二日締切)

かすまずは何をか春と思はましままだ雪きえぬみよしの山 (続後撰和歌集)

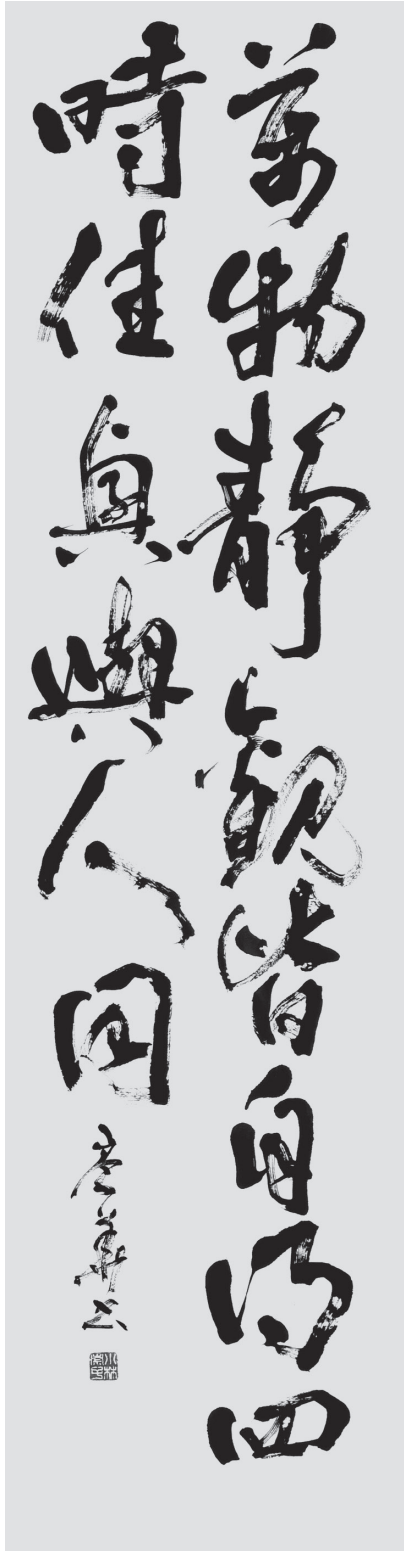
西行法師

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

小林崇華先生書

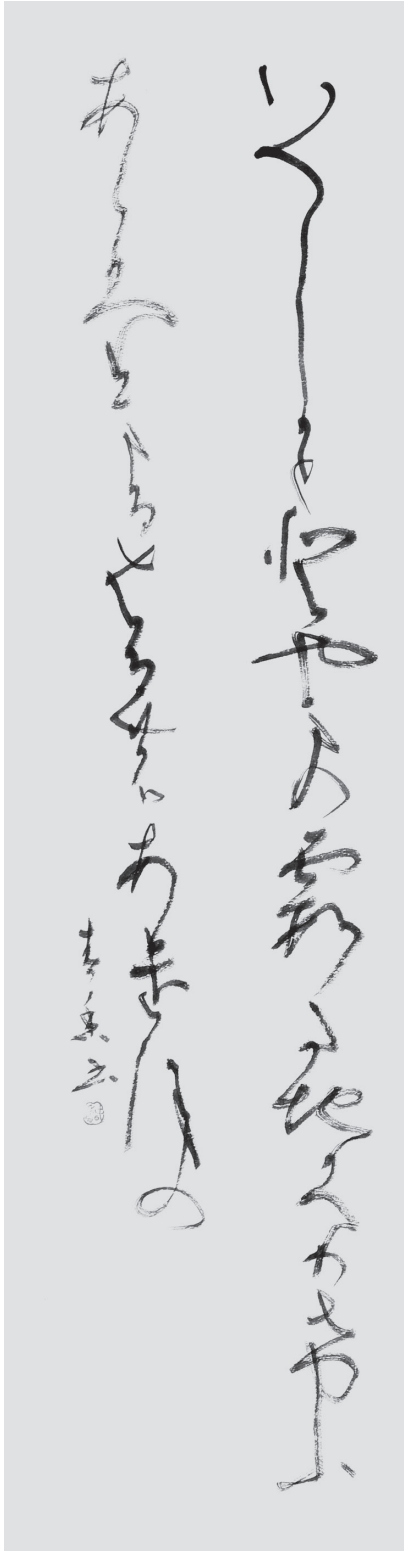
萬物靜觀皆自得 四時佳興與人同 (程子)
ばんぶつせいかんみなじとく じしじょうきよひとおな
万物靜觀皆自得、四時の佳興人と同じ。



訳：万物を静観すれば何事も自得されぬことはない、春夏秋冬のよき興味は人々と変わりはない。

石原春香先生書

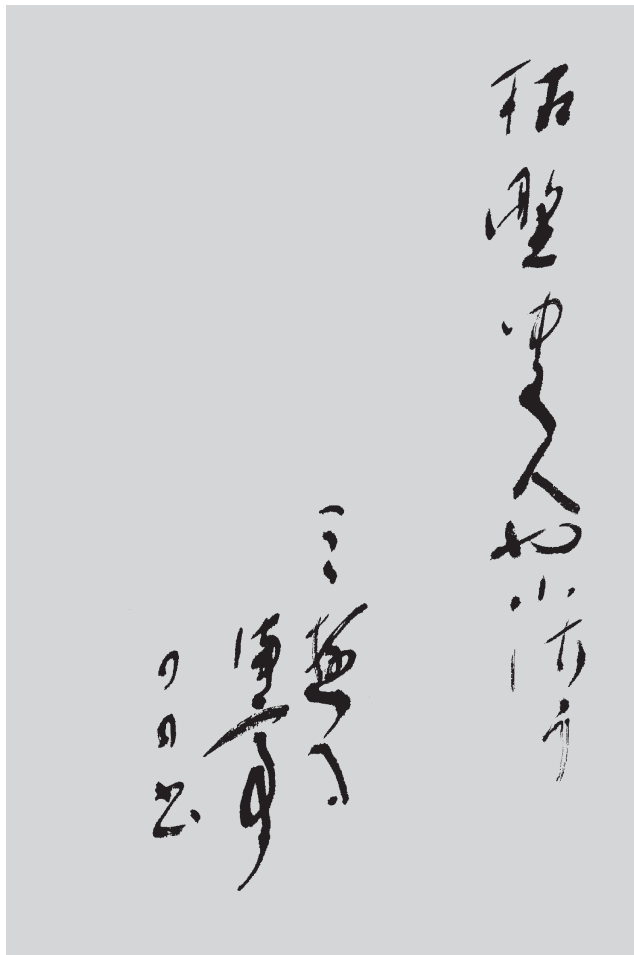
いつしかとやまの霞たちかへりけふあらたまる春のあけぼの (藤原定家)
いつしかと登や万の霞多地可へ利希ふあら堂万る者る農あ遣保の



歌意：待ちあこがれていた人里近い山の霞ももどって来て、今日からは季節のあらたまる新春の朝である。

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

かな部課題参考 (一月二十二日締切)



平岡華雪先生書
 枯野行く人や小さう見ゆるまで (千代尼)
 枯野ゆ久人や小佐う三遊る満亭

〈诗情と筆意を重ね合わせつつ〉
 左上半部の余白と左右二群との照応が
 大きなポイント。手本では左群下五、変
 体かなを自在に駆使。

(2月22日締切) 立ち寄りて北野の梅は早かりし (いはほ)

漢字部課題参考 (一月二十二日締切)



平岡華雪先生書
 疾風に勁草を知る (後漢書)
 訳：草の強いか弱いかは、強風が吹いてみ
 るとわかる。人も然り。(光武帝の語)

〈各文字のポイント〉
 「風」 風構えをピリッと。
 「知」 「口」 はきりっと締めて。
 「勁」 末画、すっぽぬけさせない。
 「草」 草かんむりの筆意はこのように。
 ① ② ③ ④

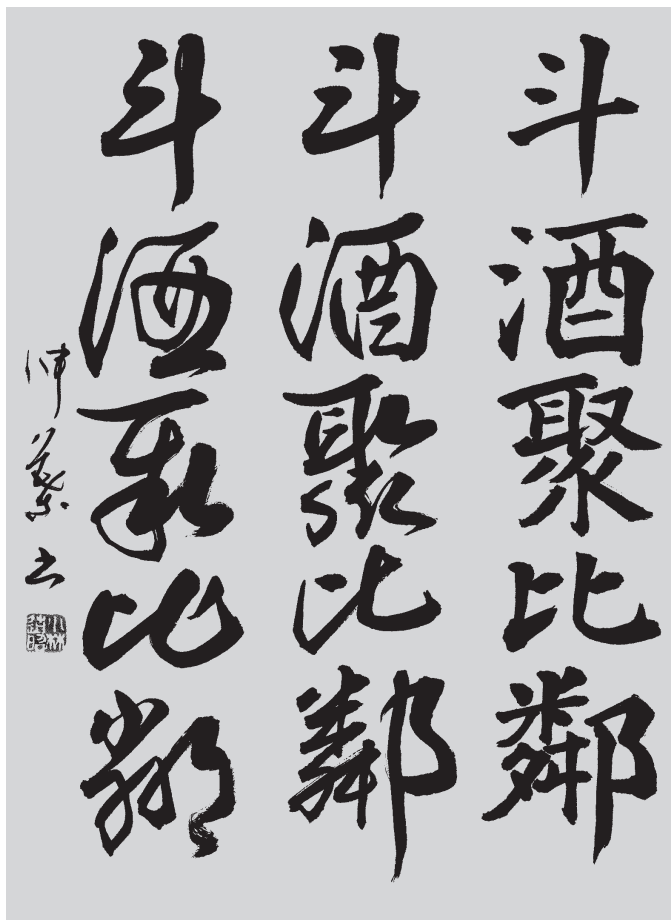
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (一月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (一月二十二日締切)

訳：酒をたっぷり用意して近所の仲間といっしょに飲むがよい。

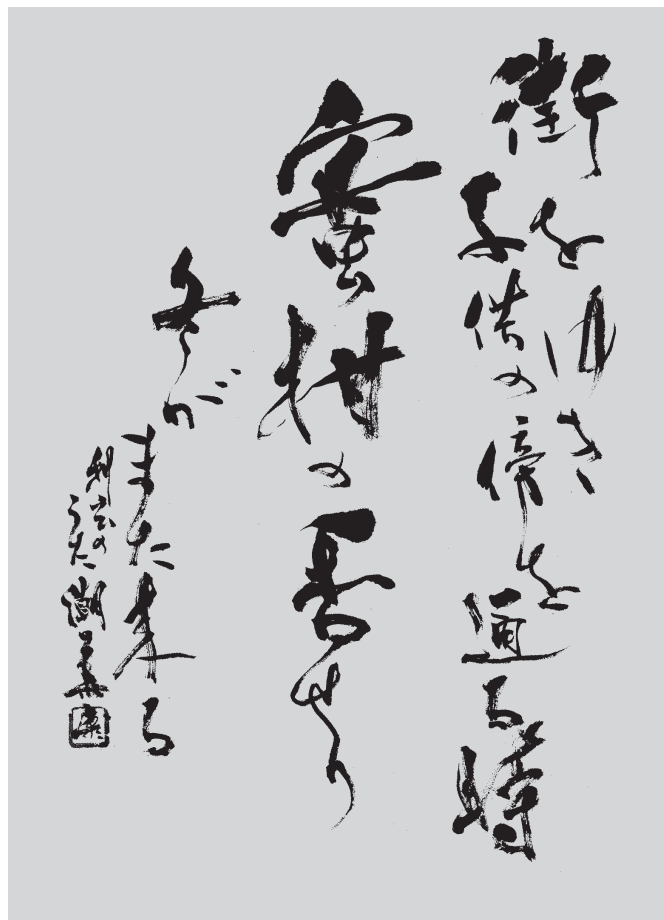


小林伸葉先生書

斗酒聚比鄰 (陶淵明)

斗酒^{とし} 比鄰^{ひりん}を聚^あむ

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。



水貝潮華先生書

街をゆき子供の傍を通る時蜜柑の香せり冬がまた来る
〔紅玉〕木下利玄

木下利玄(一八八六〜一九二五)は、しばしば子どもをモチーフにした歌を残しました。この歌も、食べた蜜柑の香りが、行き交う子供たちから匂い立つという歌です。「蜜柑の香せり」を山場とし、中央に少し大きめに間隔を空けて配字し、前半と後半は密を避ける為、少し小さめに書き込んでいます。単調にならぬように緩急をつけた運筆が大切です。

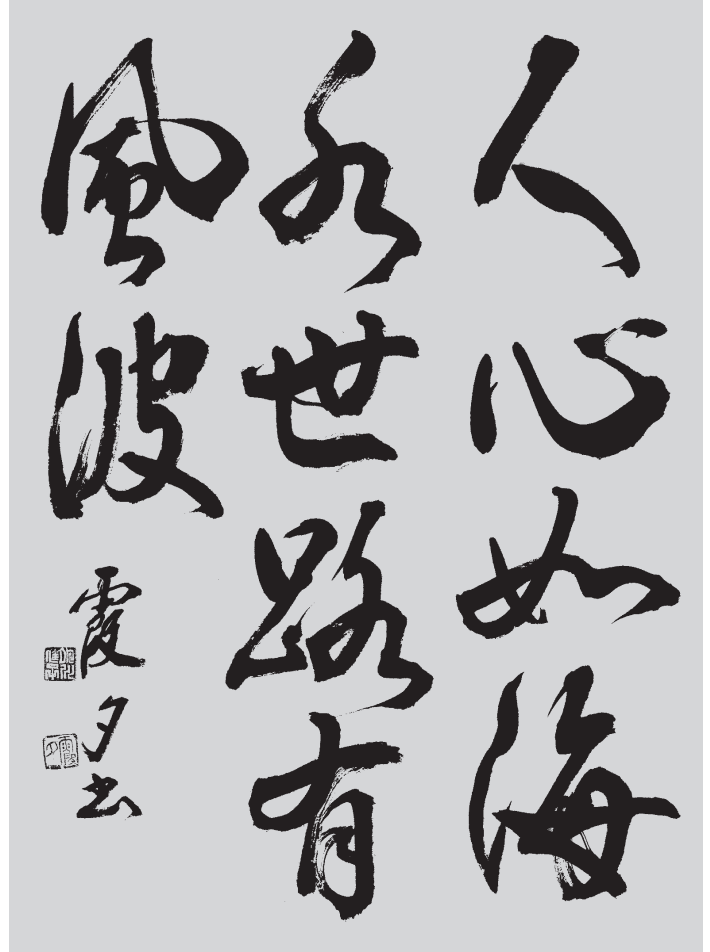
(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

随意部参考

外川霞夕先生書

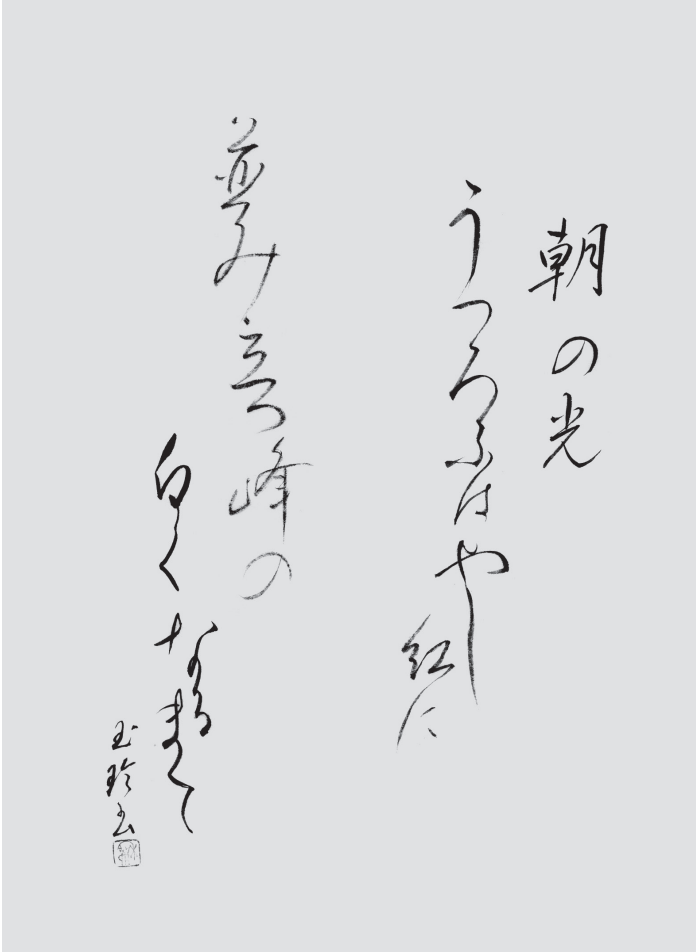
人心如海水 世路有風波（彭炳）
人心は海水の如く、世路風波有り。



訳：人の心は大海の水のようである。だからこの世を渡るには波荒れ風吹き容易なことではない。

大和田玉玲先生書

朝の光うつろふはやし紅に並み立つ峰の白くなるまで（土屋文明）
朝の光うつろふはやし紅に並み立つ峰の白くなるまで



歌意：朝の光の移り変わってゆくのはまことに速い。紅色に輝いて並び立つ峰々が、白々となってくるまでの、このしばしの時よ。

硬筆部課題参考

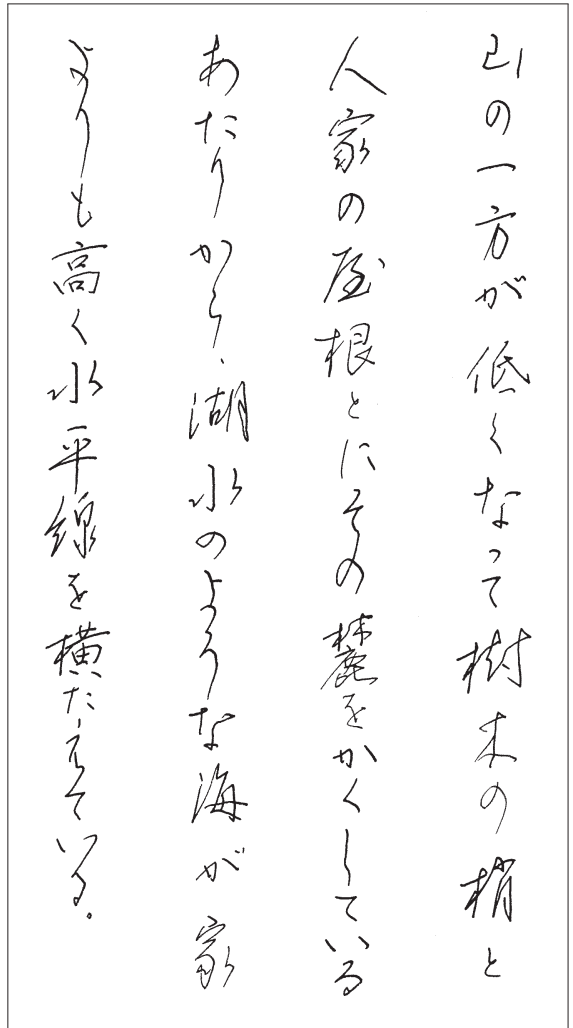
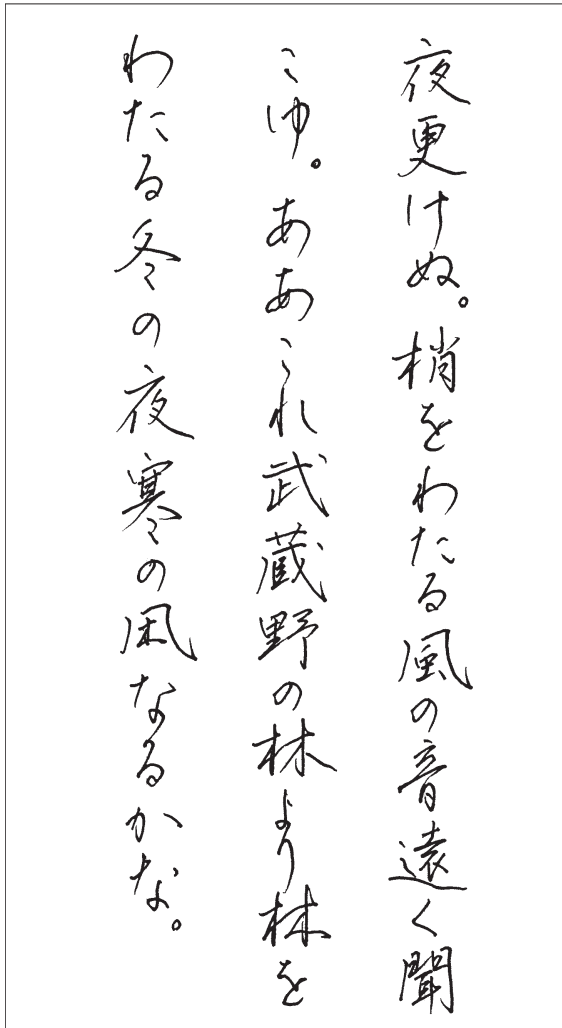
(一月二十二日締切)

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)



課題1 (初段以上)

山の一方が低くなつて樹木の梢と人家の屋根とにその麓をかくしているあたりから、湖水のような海が家よりも高く水平線を横たえている。

『冬日の窓』永井荷風

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)。
- (4) はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

夜更けぬ。梢をわたる風の音遠く聞こゆ。ああこれ武蔵野の林より林をわたる冬の夜寒の風なるかな。

『武蔵野』国木田独歩